

原著論文

保育サービス・育児支援制度のニーズに関する研究

——子どもの年齢・地域・サポートの充実度——

友田 尋子¹⁾・河合 洋子²⁾

A Study on the Needs of Parents for Child Services and Child Rearing Support Systems

——An Evaluation of Parents of the Child Population and Life Area,
and Satisfaction with Child Rearing Support——

TOMODA Hiroko and KAWAI Yoko

Abstract : The Hyogo Nursing Association analyzed the Day Care Service for Sick and Recovering Children that helps working women with child rearing. Questionnaire surveys were conducted with parents who had children aged 0 through 9, supporters of child services and supporters of a family support center. The results are summarized as follows : an increased use of child rearing support systems, the making of arrangements for Day-care Service for Sick and Recovering Children, improvements to help the medical staff and encourage support for the Day-care Service for Sick and Recovering Children. This report analyzed the needs of parents using child services and child rearing support systems presently and in the future. The results suggest that there are differences in the needs for parents of the child population and area they live in. As a result, there needs to be a system that covers a variety of needs.

Key Words : Child services, Child rearing support systems, Family Support, Day-care Service for Sick and Recovering Children, Nurses

抄録 : 兵庫県看護協会は兵庫県からの調査委託を受け、病児・病後児保育の現状とニーズを把握し、今後の病児・病後児保育の取り組みについて検討することを目的に、兵庫県下で暮らす0歳から9歳までの子どもを持つ親やその家族を支援する事業や個人へ、保護者へのニーズ調査、保育サポーターの意識調査、市町及びの調査、市町及びファミリーサポートセンターの意識調査を行った。結果、効果的な広報を検討・実施し、子育て支援事業の利用者の増加を目指すことの重要性、利用しやすく、安心・安全な病児・病後児保育の整備、医師・看護師等の支援の充実、病児・病後児をサポートする人材の育成・研修の充実が明らかとなった。本稿は調査目的および調査のうちの、育児に関する施設を利用している親の育児支援の現状について、年齢別、地域別に明らかにするとともに、育児支援の現状に対するニーズ及び今後のニーズを明らかにし、子どもを持つ女性の就労支援に向けて検討した。結果、サポートの充実の相違がニーズの地域差として明らかになり、年齢では、幼児期と学童期のニーズの相違と地域での共通が明らかとなった。

キーワード : 保育サービス, 育児支援制度, ファミリーサポート, 病児・病後児, 看護師

¹⁾甲南女子大学看護リハビリテーション学部

²⁾宝塚大学看護学部

I. はじめに

平成21年度労働力調査¹⁾では、15歳以上の女性人口の約半数が就労しているが、年齢別労働力率をみると30歳～40歳が低くなるM字型カーブを未だに示し、2001年度の出生児横断調査結果では第1子出産を機に約7割が離職している²⁾。子育て期で女性が就労を断念する理由として、子どもが病気になった場合に仕事を休まざるを得ない日が1週間以上になる、保育所で病児が発生した場合、親に迎えに来てもらわざるを得ないため急に早退等をしなければならない、というように、子どもの病気や突然の状態に対応できないことが大いに関係していた。子育て期の女性が離職することなく就労する環境を整えるには、病児・病後児保育が重要になっている。近年では、子どもが急に病気になった時など就労する親に代わり、子どもを預かり病院への受診などを行う病児・病後児保育が行われ始めているがまだ需要に応じたものとはいえず、そのニーズは高まる一方である。

兵庫県看護協会では、看護職による緊急サポート「カンガルーネット」を実施しているが、この事業は全国で唯一のサポートである。この事業が評価され、兵庫県からの調査委託を兵庫県看護協会は受け、兵庫県内看護系大学11校の小児看護学を担当する研究者たちにより、病児・病後児保育の現状とニーズを把握し、今後の病児・病後児保育の取り組みについて検討することを目的に、兵庫県下で暮らす0歳から9歳までの子どもを持つ親やその家族を支援する事業や個人へ、保護者へのニーズ調査、保育サポーターの意識調査、市町及びの調査、市町及びファミリーサポートセンターの意識調査を行った。

本稿は、調査内容のうちの、育児に関する施設を利用している親の育児支援の現状について明らかにするとともに、育児支援の現状に対するニーズ及び今後のニーズを明らかにし、子どもを持つ女性の就労支援に向けて検討した。

II. 研究目的・方法

1. 調査目的

①兵庫県内の現状に即した病児・病後児保育体制を整えるための保護者のニーズの把握、保育サポーターの意識調査、施設の病児・病後児保育の取り組みへの実態把握について調査し、得られた結果をふまえ、兵

庫県内の現状に即した病児・病後児保育体制を検討することを目的とする。

②兵庫県在住の0歳から9歳までの子どもを持つ保護者を対象に、女性の就労支援に向けた病児・病後児保育支援事業ニーズを明らかにすることを目的とする。

2. 調査対象

①対象市町にある保育所・放課後児童クラブ在籍の母親、子どもの年齢を「0歳～2歳」「3歳～6歳」「小学校1年～3年」の3段階カテゴリーに分類

②対象市町のファミリーサポートセンター又は、カンガルーネット会員で病児・病後児のあずかり経験をした個人

③施設管理者ですでに病児・病後児保育を実施している施設と今後実施する可能性のある施設。保育所・認定こども園、放課後児童クラブは対象市町にある施設、ファミリーサポートセンター、病児・病後児保育施設は兵庫県全数を対象とした。

3. 調査対象地域

地域は、病児・病後児保育施設に関するサポートの充実している地域を4グループに分類した。

第1グループ：「カンガルーネット」「ファミリーサポートセンター」「病児・病後児保育施設」がある市町（尼崎市、西宮市、伊丹市、姫路市）

第2グループ：「ファミリーサポートセンター」「病児・病後児保育施設」がある市町（川西市、宝塚市、明石市、高砂市、三木市、丹波市）

第3グループ：「ファミリーサポートセンター」がある市町（相生市、加東市、宍粟市、たつの市、篠山市）

第4グループ：「カンガルーネット」「ファミリーサポートセンター」「病児・病後児保育施設」がいずれもない市町（福崎町、太子町、養父市、香美町、洲本市）

4. 調査方法

調査票を対象者、対象施設に直接郵送し、直接返信する方法を行った。ただし、ファミリーサポートセンター会員の病児・病後児サポート経験者に関してはファミリーサポートセンターを通して配布し、保育所全てと放課後児童クラブ2カ所のみ、施設でまとめて回収した。

兵庫県下の保育所や放課後児童クラブなどの施設を

利用している保護者（5147人）および施設（145施設）、病児・病後児サポート経験者（130人）を対象に調査票を配布した。

Ⅲ. 倫理的配慮

本調査は、社団法人兵庫県看護協会研究倫理委員会の承認を受けたものであり、調査への協力は自由意志であり、強制されるものではないこと及び、回答の返信をもって同意を得たとみなすことを書面に記す。回答は匿名で、集計・分析においても個人が特定されることはないことを説明する。調査票の配布、回収を施設に依頼を実施するため、各施設への依頼文書には、調査への協力は対象者の自由意志であることを明記する。回答後は各自で封筒に入れて封をし、各施設で回

収してもらえよう依頼する。本調査について不明な点があった際には問い合わせが行えるように、連絡先を明記する。回答後の調査票は、守秘義務を負う研究の担当者および研究者のみ扱うこととする。

Ⅳ. 結果

1. 在籍している施設とそれ以外で利用している育児支援制度の状況

①施設

なんらかの施設に在籍しているのは（表1）、0～2歳児440名（84.9%）、3～6歳児453名（96.8%）、学童711名（88.2%）であった。通常利用する施設は、0～2歳児は保育所374名（72.2%）、認定こども園66名（12.7%）であり、3～6歳児は保育所453名（76.9

表1 保育サービス・育児支援制度の年齢別・地域別利用状況

n=1913 [人数/％]

年齢構成	地域区分	施設						育児支援											
		通常保育サービス			通常以外			施設以外公的育児支援					子育て支援			民間の保育等			
		0～6歳			学童			延長保育	病児・病後児保育	ファミリーサポートセンター	シルバー人材センター	NPO法人ベビシッターサービス	カンガルーネット	保育所園	まちの子育て広場	まちの冒険広場	ベビシッター	家政婦	その他
		保育所	認定こども園	在籍なし	放課後児童クラブ	在籍なし	0～6歳												
0～2歳 n=518	地域① (71)	26 36.6	37 52.1	8 11.3			9 12.7	4 5.6	4 5.6	1 1.4	0 0	1 1.4	3 4.2	3 4.2	0 0	0 0	0 0	2 2.8	
	地域② (166)	142 85.5	1 0.6	23 13.9			40 24.1	6 3.6	6 3.6	1 0.6	0 0	0 0	13 7.8	10 6.0	1 0.6	0 0	0 0	1 0.6	
	地域③ (166)	110 66.3	28 16.9	28 16.9			29 17.5	—	8 4.8	0 0	0 0	—	7 4.2	20 12.0	1 0.6	0 0	0 0	2 1.2	
	地域④ (115)	96 83.5	0 0	19 16.5			26 22.6	—	—	0 0	0 0	—	11 9.6	17 14.8	0 0	1 0.9	0 0	1 0.9	
	計 (518)	374 72.2	66 12.7	19 3.7			104 20.1	10 1.9	18 3.5	2 0.4	0 0	1 0.2	34 6.6	50 9.7	2 0.4	2 0.4	0 0	6 1.2	
3～6歳 n=589	地域① (128)	39 30.5	87 68.0	2 1.6			21 16.4	5 3.9	2 1.6	0 0	0 0	3 2.3	1 0.8	0 0	2 1.6	0 0	0 0	0 0	
	地域② (165)	158 95.8	1 0.6	6 3.6			31 18.8	2 1.2	7 4.2	0 0	0 0	—	3 1.8	0 0	0 0	0 0	4 2.4		
	地域③ (157)	125 79.6	28 17.8	4 2.5			20 12.7	—	3 1.9	0 0	0 0	—	1 0.6	1 0.6	2 1.3	0 0	0 0		
	地域④ (139)	131 94.2	1 0.7	7 5.0			31 22.3	—	—	0 0	0 0	—	1 0.7	6 4.3	0 0	1 0.7	2 1.4		
	計 (589)	453 76.9	117 19.9	19 3.2			103 17.5	7 1.2	12 2.0	0 0	0 0	3 0.5	6 1.0	7 1.2	2 0.3	3 0.5	2 0.3	5 0.8	
学童 n=806	地域① (160)			140 87.5	20 12.5			5 3.1	13 8.1	0 0	0 0	1 0.6				1 0.6	0 0	4 2.5	
	地域② (373)			336 90.1	37 9.9			3 0.8	22 5.9	1 0.3	0 0	—				4 1.1	0 0	11 2.9	
	地域③ (194)			176 90.7	18 9.3			—	10 5.2	0 0	0 0	—				0 0	0 0	2 1.0	
	地域④ (79)			59 74.7	20 25.3			—	1 1.3	0 0	0 0	—				0 0	0 0	1 1.3	
	計 (806)			711 88.2	95 11.8			9 1.1	46 5.7	1 0.1	0 0	1 0.1				5 0.6	0 0	18 2.2	

保育所：0～2歳と3～6歳のみ 母集団を全体から限定した n=1107

認定こども園：同上

放課後児童クラブ：学童のみ 母集団を全体から学童のみとした n=806（表1と同）

表2 保育サービス・育児支援制度の地域別利用状況

n=1913 [人数/％]

地域 区分	施設				育児支援												
	通常保育サービス				通常以外		施設以外公的育児支援					子育て支援 n=1107			民間の保育等		
	n=1107 保育所	n=1107 認定こども園	n=806 児童クラブ	n=806 在籍なし	延長 保育	病児・ 病後児 保育	ファミ リサポ ーター	シル バー 人材 セン ター	NPO 法人 ベビー シッター サービ ス	カン ガル ーネ ット	保育 所園	ま ちの 子育 て広 場	ま ちの 冒 険 広 場	ベ ビー シ ッター	家 政 婦	そ の 他	
地域①	65 32.7	124 62.2	140 87.5	30 18.8	30 8.4	14 3.9	19 5.3	1 0.3	0 0	5 1.4	4 2.0	3 1.5	0 0	3 0.8	0 0	6 1.7	
地域②	300 90.6	2 0.6	336 90.1	66 17.7	71 10.1	11 1.6	35 5.0	2 0.3	0 0	-	16 4.9	10 3.0	1 0.3	5 0.7	0 0	16 2.3	
地域③	235 72.8	56 17.3	176 90.7	50 25.6	49 9.5	-	21 4.1	0 0	0 0	-	8 2.5	21 6.5	3 0.9	0 0	0 0	4 0.8	
地域④	227 89.4	1 0.3	59 74.7	46 58.2	57 17.1	-	1 0.3	0 0	0 0	-	12 4.7	23 9.1	0 0	2 0.6	2 0.6	3 0.9	
計	827 74.7	183 16.5	711 95.7	192 23.8	207 10.8	25 1.3	76 4.0	3 0.2	0 0	5 0.3	40 3.6	57 5.1	4 0.4	10 0.5	2 0.1	29 1.5	

％)、認定こども園 117 名 (19.9%) であった。学童は放課後児童クラブ 711 名 (88.2%) を利用していた。通常利用する施設以外では、延長保育・休日保育・一時保育は 0~2 歳児 104 名 (20.1%)、3~6 歳児 103 名 (17.5%) が利用していた。病児・病後児の一時保育では、0~2 歳児 10 名 (1.9%)、3~6 歳児 7 名 (1.2%)、学童 9 名 (1.1%) であった。

地域別にみると (表 2)、通常利用する施設の保育園は、地域④が最も多く 227 名 (66.2%)、地域①が 65 名 (18.1%) で最も少なかった。認定こども園は地域① 124 名 (34.5%) と多かった。放課後児童クラブは地域④ 59 名 (17.7%) と最も少なかった。通常利用する施設の利用が最も少なかったのは、地域④ 46 名 (13.8%) であった。施設内における通常の保育サービスの利用について地域別に比較すると、0~2 歳では地域③④が極僅かに低い有意差はなく、学童では放課後児童クラブの利用に有意差があり地域④の学童は放課後児童クラブを利用していない割合が高かった ($p < 0.001$)。

②子育て支援

子育て支援は、全体では保育所園 40 名 (2.1%) とまちの子育てひろば 57 名 (3.0%) が多く、0~2 歳の利用が多かった。子どもの冒険ひろばは 4 名 (0.2%) で、0~2 歳、3~6 歳ともに利用が少なかった。公的な育児支援では、全体はファミリーサポートセンターの利用が 76 名 (4.0%) であり、0~2 歳児 18 名 (3.5%)、3~6 歳児 12 名 (2.0%)、学童 46 名 (5.7%) と学童の利用が多かった。シルバー人材による保育サポーターでは、全体は 3 名 (0.2%) であり、0~2 歳児と学童とわずかの利用であった。NPO 法人のベビー

シッターサービスの利用はなかった。カンガルーネットは全体で 5 名 (0.3%) であり、各年齢で利用は少なかった。民間の保育所等では、全体はベビーシッター 10 名 (0.5%)、家政婦 2 名 (0.1%)、その他 29 名 (1.5%) であり、年齢による差はなかった (表 1)。

地域別 (表 2) にみると、公的な育児支援ではファミリーサポートセンターはサポートの存在する地域①②③で約 5% と同じくらいの利用であった。地域①で保育所が、32.7 と低いのが、ここでは、保育所と認定こども園を合わせて考えるとよい。地域①は認定こども園制度が進んでいるようである。シルバー人材による保育サポーターは地域①②でわずかの利用、カンガルーネットは地域①のみの利用であった。子育て支援では、地域④が保育所園 12 名 (4.7%) およびまちの子育てひろば 23 名 (9.1%) で、他と比較して多かった。まちの子育てひろばでは、0~2 歳において利用に有意差があり、地域③④での利用が多かった ($p < 0.05$)。まちの冒険広場では、地域②③でわずかに利用されていた。

2. 手当・その他について

児童手当 1530 名 (55.2%) と乳幼児医療助成制度 1066 名 (38.4%) が多く活用され、0~2 歳 85.6% と 69.9%、3~6 歳 83.9% と 57.9%、学童 74.2% と 45.0% と年齢が低いほど利用率が高かった。ひょうご多子世帯保育料軽減事業は全体で 109 名 (3.9%)、学童 80 名 (9.9%) の利用が多かった。特別児童扶養手当は 52 名 (1.9%)、0~2 歳 16 名 (3.1%)、3~6 歳 29 名 (4.9%) の利用が多かった。公営住宅への優先入居は全体で 18 名 (0.6%)、年齢差はなく利用が少なかった。

表3 手当でその他の年齢別地域別利用状況
n=1913 [人数/％]

年齢構成	地域区分	手当・その他					計
		児童手当	乳幼児医療助成	ひょうご多子世帯	特別児童扶養手当	公営住宅優先	
0～2歳	地域①	59 83.1	47 66.2	2 2.8	1 1.44	1 1.4	110 100
	地域②	139 83.7	114 68.3	4 2.4	6 3.6	0 0	263 100
	地域③	137 82.5	110 66.3	6 3.6	5 3.0	0 0	258 100
	地域④	103 89.6	91 79.1	5 4.3	4 3.5	0 0	203 100
	計	438 84.6	362 69.9	17 3.3	16 3.1	1 1.2	834 100
3～6歳	地域①	113 88.3	74 57.8	1 0.8	4 3.1	4 3.1	196 100
	地域②	136 82.4	83 50.3	2 1.2	10 6.1	0 0	231 100
	地域③	126 80.3	100 63.7	7 4.5	9 5.7	2 1.3	244 100
	地域④	119 85.6	84 60.4	2 1.4	6 4.3	0 0	211 100
	計	494 83.9	341 57.9	12 2.0	29 4.9	6 1.0	882 100
学童	地域①	121 75.6	68 42.5	15 9.4	0 0	2 1.3	206 100
	地域②	275 73.7	153 41.0	41 11.0	4 1.1	5 1.3	478 100
	地域③	142 73.2	104 53.6	16 8.2	2 1.0	4 2.1	268 100
	地域④	60 75.9	38 48.1	8 10.1	1 1.3	0 0	107 100
	計	598 74.2	363 45.0	80 9.9	7 0.9	11 1.4	1059 100

表4 手当でその他の地域別利用状況
n=1913 [人数/％]

地域区分	手当・その他					計
	児童手当	乳幼児医療助成	ひょうご多子世帯	特別児童扶養手当	公営住宅優先	
地域①	293 57.2	189 36.9	18 3.5	5 1.0	7 1.4	512 100
地域②	550 56.6	350 36.0	47 4.8	20 2.1	5 0.5	972 100
地域③	405 52.6	314 40.8	29 3.8	16 2.1	6 0.8	770 100
地域④	282 54.1	213 40.9	15 2.9	11 2.1	0 0	521 100
計	1530 55.2	1066 38.4	109 3.9	52 1.9	18 0.6	2775 100

た(表3)。

地域別(表4)では手当などで助成の受け方について違いがなかった。

3. 保育サービスの利用時間に対するニーズについて

①利用時間と親の勤務時間の一致について

親の勤務時間と保育サービスの利用時間が合っているかを尋ねた。全体では、一致している1369名

表5 保育サービスの利用時間と親の勤務時間の一致(年齢別地域別)
n=1789 [人数/％]

年齢構成	地域区分	保育時間と勤務時間の一致		計
		一致している	一致していない	
0～2歳	地域①	50 76.9	15 23.1	65 100
	地域②	113 75.8	95 60.1	149 100
	地域③	119 80.4	94 58.8	148 100
	地域④	75 72.1	62 57.4	104 100
	計	357 76.6	109 23.4	466 100
3～6歳	地域①	96 83.5	19 16.5	115 100
	地域②	128 82.1	28 17.9	156 100
	地域③	122 82.4	26 17.6	148 100
	地域④	117 87.3	17 12.7	134 100
	計	463 83.7	90 16.3	553 100
学童	地域①	92 59.4	63 40.6	155 100
	地域②	256 71.9	100 28.1	356 100
	地域③	145 76.7	44 23.3	189 100
	地域④	56 80.0	14 20.0	70 100
	計	549 71.3	221 28.7	770 100

表6 保育サービスの利用時間と親の勤務時間の一致(地域別)
n=1789 [人数/％]

	保育時間と勤務時間の一致		計
	一致している	一致していない	
地域①	238 71.0	97 29.0	335 100
地域②	497 75.2	164 24.8	661 100
地域③	386 79.6	99 20.4	485 100
地域④	248 80.5	60 19.5	308 100
計	1369 76.5	420 23.5	1789 100

(76.5%)、一致していない420名(23.5%)であった(表5)。年齢別に一致の割合をみると、3～6歳が463名(83.7%)と最も高く、0～2歳357名(76.6%)、学童549名(71.3%)が一致していると回答していた。

地域別(表6)にみると、地域①97名(29.0%)が一致していないと答えており、地域②164名(24.8%)、地域③④は各約20%と比較して一致していない割合が高かった。両者間に有意差が認められており($X^2=11.525$, $p<0.01$)、地域①の親は勤務時間と保育

サービスの利用時間の一致に対してニーズが高く、地域③④の親はニーズが低いことがわかった。年齢における地域別では、地域①では学童で有意差が認められており ($X^2 = 16.174, p < 0.01$)、地域①の親は学童において利用時間と親の勤務時間の一致に対するニーズが高いといえる。それ以外の地域では大きな差はなかった。

③保育サービス利用時間が一致していない理由

利用時間と親の勤務時間とで一致していない理由は、全体で早出・残業 131 名 (29.0%) と多く、交代勤務・夜勤 88 名 (19.5%)、施設の開館・閉館時間が早い・遅い 78 名 (17.3%) などであった。0~2 歳、3~6 歳では早出・残業が多く、0~2 歳 46 名 (38.0%)、3~6 歳 46 名 (42.2%) であった。次に交代勤務・夜勤が 34 名 (28.1%)、19 名 (17.4%)、続いて通勤時間がかかる 20 名 (16.5%)、19 名 (17%) であった。学童は施設の開館・閉館時間が早い・遅い 67 名

(30.3%) で最も多く、次に長期休暇の開館 29 名 (13.1%) であった (図 1、表 7)。

地域別 (表 8) に見ると、地域①は施設の開閉時間が遅い 34 名 (34.0%)、地域③④では早出・残業が多く、それぞれ 39 名 (35.8%)、27 名 (39.7%) であった。地域②では、早出・残業と通勤時間がかかる 38 名 (21.8%)、施設の開閉時間が遅い 33 名 (19.0%) であった。0~2 歳では、地域①②で交代勤務・夜勤 (地域①33.3%、地域②28.9%)、早出・残業 (地域①33.3%、地域②26.3%) が多く、地域③④は早出・残業 (地域③45.5%、地域④46.9%) が多かった。3~6 歳ではどの地域も早出・残業 (地域①54.2%、地域②30.3%、地域③41.4%、地域④47.8%) が最も多かった。学童では、地域①②④で施設の開館・閉館時間が早い・遅い (地域①51.7%、地域②27.2%、地域④23.1%) が最も多かったが、地域③は早出・残業 (25.5%) と交代勤務・夜勤 (23.4%) が多かった。

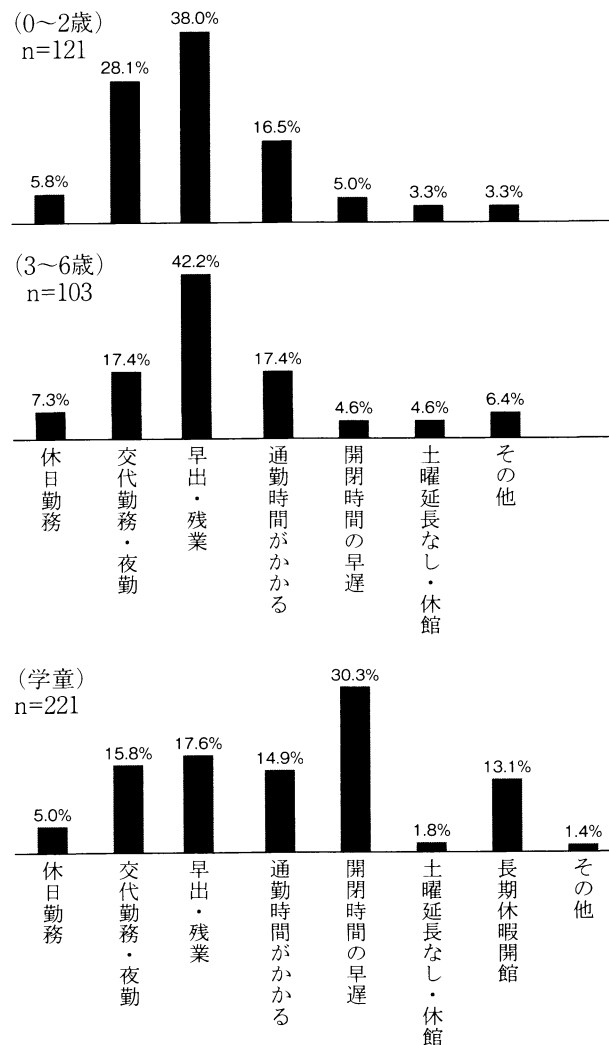


図 1 保育サービスの希望内容 [数値：%]

表7 保育サービスの希望内容（年齢別地域別）

n=451 [人数/％]

年齢構成	地域区分	休日勤務	交代勤務・夜勤	早出・残業	通勤時間がかかる	開閉時間の早遅	土曜延長なし、休館	長期休暇の開館	その他	計
0～2歳	地域①	3 16.7	6 33.3	6 33.3	0 0	3 16.7	0 0		0 0	18 100
	地域②	1 2.6	11 28.9	10 26.3	10 26.3	2 5.3	2 5.3		2 5.3	38 100
	地域③	0 0	11 33.3	15 45.5	4 12.1	1 3.0	1 3.0		1 3.0	33 100
	地域④	3 9.4	6 18.8	15 46.9	6 18.8	0 0	1 3.1		1 3.1	32 100
	計	7 5.8	34 28.1	46 38.0	20 16.5	6 5.0	4 3.3		4 3.3	121 100
3～6歳	地域①	2 8.3	3 12.5	13 54.2	5 20.8	1 4.2	0 0		0 0	24 100
	地域②	3 9.1	5 15.2	10 30.3	7 21.2	3 9.1	1 3.0		4 12.1	33 100
	地域③	2 6.9	7 24.1	12 41.4	3 10.3	0 0	2 6.9		3 10.3	29 100
	地域④	1 4.3	4 17.4	11 47.8	4 17.4	1 4.3	2 8.7		0 0	23 100
	計	8 7.3	19 17.4	46 42.2	19 17.4	5 4.6	5 4.6		7 6.4	109 100
学童	地域①	3 5.2	7 12.0	8 13.8	3 5.2	30 51.7	0 0	5 8.6	2 3.4	58 100
	地域②	4 3.9	15 14.6	18 17.5	21 20.4	28 27.2	1 1.0	16 15.5	0 0	103 10
	地域③	4 8.5	11 23.4	12 25.5	7 14.9	6 12.8	1 2.1	5 10.6	1 2.1	47 100
	地域④	0 0	2 15.4	1 7.7	2 15.4	3 23.1	2 15.4	3 23.1	0 0	13 100
	計	11 5.0	35 15.8	39 17.6	33 14.9	67 30.3	4 1.8	29 13.1	3 1.4	221 100

表8 保育サービスの希望内容（地域別）

n=451 [人数/％]

	休日勤務	交代勤務・夜勤	早出・残業	通勤時間がかかる	開閉時間の早遅	土曜延長なし、休館	長期休暇の開館 n=221	その他	計
地域①	8 8.0	16 16.0	27 27.0	8 8.0	34 34.0	0 0	5 8.6	2 2.0	100 100
地域②	8 4.6	31 17.8	38 21.8	38 21.8	33 19.0	4 2.3	16 15.5	6 3.4	174 100
地域③	6 5.5	29 26.6	39 35.8	14 12.8	7 6.4	4 3.7	5 10.6	5 4.6	109 100
地域④	4 5.9	12 17.6	27 39.7	12 17.6	4 5.9	5 7.4	3 23.1	1 1.5	68 100
計	26 5.8	88 19.5	131 29.0	72 16.0	78 17.3	13 2.9	29 13.1	14 3.1	451 100

放課後児童クラブ：学童のみ。母集団を全体から学童のみとした n=457（表15と同）。

地域別に親の職業（表9）をみると、0～2歳は地域①会社員が多く、地域②自営業、パート・アルバイトが多かった。地域③④パート・アルバイト、会社員が多かった。3～6歳ではいずれの地域もパート・アルバイトが多いが、地域①では会社員が次に多かった。学童では地域①は会社員、地域②③④はパート・アルバイトが多かった。

④利用時間の希望について（表10）

平日の利用希望の開始時間は午前7時と午前8時が最も多かった。終了の時間は午後7時が最も多く、次に午後8時であった。年齢別では、0～2歳、3～6歳

の開始時間は午前7時、次に午前8時30分～8時59分、終了は午後8時、次に午後7時であった。学童の開始時間は、午前8時、次に午前8時30分～8時59分、終了は午後7時、次に午後6時であった。

土曜日の保育サービスの利用、土日祝の希望もあり、希望時間は午前8時30分～8時59分、次に午前8時、終了は午後6時、次に午後7時が多かった。年齢別では、3～6歳と学童は午前8時30分～8時59分の開始が最も多く、0～2歳では午前8時が多かった。終了時間は、3～6歳と学童は午後7時、0～2歳は午後6時であった。

表9 親の職種の年齢別地域別一覧
n=1899 [人数/％]

年齢構成	地域区分	職種						計
		自営業	会社員	公務員	主婦	パート・アルバイト	その他	
0~2歳	地域①	5 7.0	32 45.1	3 4.2	10 14.1	14 19.7	7 9.9	71 100
	地域②	68 41.2	0 0	13 7.9	22 13.3	57 34.5	5 3.0	165 100
	地域③	12 7.4	41 25.2	14 8.6	24 14.7	57 35.0	15 9.2	163 100
	地域④	7 6.1	36 31.3	11 9.6	16 13.9	36 31.3	9 7.8	115 100
	計	92 17.9	109 21.2	41 8.0	72 14.0	164 31.9	36 7.0	514 100
3~6歳	地域①	5 4.0	37 29.6	11 8.8	17 13.6	43 34.4	12 9.6	125 100
	地域②	14 8.5	35 21.2	10 6.1	16 9.7	80 48.5	10 6.1	165 100
	地域③	11 7.0	36 22.9	16 10.2	12 7.6	69 43.9	13 8.3	157 100
	地域④	16 11.7	28 20.4	19 13.9	9 6.6	56 40.9	9 6.6	137 100
	計	46 7.9	136 23.0	56 9.6	54 9.2	248 42.5	44 7.5	584 100
学童	地域①	3 1.9	65 40.6	19 11.9	1 0.6	60 37.5	12 7.5	160 100
	地域②	10 2.7	128 34.6	49 13.2	0 0	145 39.2	38 10.3	370 100
	地域③	8 4.2	55 28.6	27 14.1	0 0	91 47.4	11 5.7	192 100
	地域④	2 2.5	19 24.1	11 13.9	1 1.3	41 51.9	5 6.3	79 100
	計	23 2.9	267 33.3	106 13.2	2 0.2	337 42.1	66 8.2	801 100

表10 平日の保育サービスの希望時間

	開始時間 n=307	終了時間 n=322
全体	午前7:00~午前8:00 午前8:30~8:59	午後7:00 午後8:00 午後6:00
0~2歳	午前7:00 午前8:30~8:59	午後8:00 午後7:00
3~6歳	午前7:00 午前8:30~8:59	午後8:00 午後7:00
学童	午前8:00 午前8:30~8:59	午後7:00 午後6:00

地域別は、3~6歳では、地域④は開始時間が午前8時30分~8時59分と他と比べて遅く、終了は午後7時と早かった。学童では、地域①②は開始時間が午前8時、地域③④は午前8時30分~8時59分であり、終了はいずれも午後7時であった。

4. 日・祝日の保育サービスについて

①保育サービス等の希望の有無

日祝日に放課後児童クラブや保育サービスの利用について尋ねたところ、731名(40.3%)が希望すると回答した(現在利用している人も含む)。年齢別でみ

表11 日・祝日の保育サービスの希望(年齢別地域別)
n=1815 [人数/％]

年齢構成	地域区分	日祝日の保育サービスの希望		計
		する	しない	
0~2歳	地域①	30 42.9	40 57.1	70 100
	地域②	63 39.9	95 60.1	158 100
	地域③	66 41.3	94 58.8	160 100
	地域④	46 52.6	62 57.4	108 100
	計	205 41.3	291 58.7	496 100
3~6歳	地域①	61 54.0	52 46.0	113 100
	地域②	87 55.1	71 44.9	158 100
	地域③	88 58.3	63 41.7	151 100
	地域④	50 36.5	87 63.5	137 100
	計	286 51.2	273 48.8	559 100
学童	地域①	61 39.9	92 60.1	153 100
	地域②	108 30.4	247 69.6	355 100
	地域③	56 30.4	128 69.6	184 100
	地域④	15 22.1	53 77.9	68 100
	計	240 31.6	520 68.4	760 100

表12 日・祝日の保育サービスの希望(地域別)
n=1815 [人数/％]

	日祝日の保育サービスの希望		計
	する	しない	
地域①	152 45.2	184 54.8	336 100
地域②	258 38.5	413 61.5	671 100
地域③	210 42.4	285 57.6	495 100
地域④	111 35.5	202 64.5	313 100
計	731 40.3	1084 59.7	1815 100

ると、0~2歳は希望するが205名(41.3%)、3~6歳が最も多く286名(51.2%)、学童は240名(31.6%)で最も低かった(表11)。

地域別(表12)では、日・祝日の保育サービスを希望する地域は①152名(45.2%)、③210名(42.4%)が多く、地域④111名(35.5%)と最も少なかった。地域④では3~6歳と学童で希望が少なく、有意差が認められた。3~6歳では地域③が日祝日の保育サービスを希望する割合が高いといえる(p<0.05)。学童も有意差があり、地域①が希望する割合が高かった

($p < 0.001$)。

②利用希望の要件

どんなときに利用しているかまたは利用したいかについて尋ねたところ、「日・祝日・祭日が仕事するとき」677名(32.1%)で最も多く、次に「親が病気するとき」359名(17.0%)、「病児・病後児の預かり」と「急用・外出のとき」が313名(14.9%)であった。0～2歳、3～6歳ではいずれも「日曜・祭日・祝日が仕事するとき」が最も多くそれぞれ223名(31.7%)、207名(32.5%)、次に「親が病気するとき」と「急用・外出のとき」は118名(16.8%)、115名(18.1%)であった。学童では「日曜・祭日・祝日が仕事するとき」247名(32.2%)が最も多く、次に「病児・病後児の預かり」138名(18.0%)、「親が病気するとき」と「急用・外出のとき」126名(16.4%)であった(表13)。

地域別(表14)では、いずれの地域も「日・祝日・祭日が仕事するとき」(地域①33.3%、地域②33.3%、地域③29.9%、地域④35.4%)が最も多かった。次に地域①②④は「親が病気するとき」(地域①17.7%、地域②17.5%、地域④19.2%)であり、地域③はわずかに「急用・外出のとき」(15.9%)が上回っていた。3

番目では地域①④が「病児・病後児の預かり」(地域①14.6%、地域④18.6%)、地域②は「急用・外出のとき」(15.9%)、地域③は「親が病気するとき」(15.8%)であった。いずれも有意差はなかった。

③保育サービスの利用希望内容

日、祝日の保育サービスの利用希望内容は、保育所458名(66.3%)と放課後児童クラブ306名(67.0%)が多く、次にファミリーサポートセンター180名(16.9%)であった。0～2歳、3～6歳では保育所をそれぞれ257名(77.2%)、201名(72.8%)、学童では放課

表14 日・祝日の保育サービスの地域別の利用希望の要件(地域別) n=2107 [人数/ %]

	日祭日 が仕事	親が 病気	病児・ 病後児	冠婚 葬祭	急用・ 外出	PTA 行事	その他	計
地域①	128 33.3	68 17.7	56 14.6	49 12.8	50 13.0	30 7.8	3 0.8	384 100
地域②	249 33.3	131 17.5	107 14.3	77 10.3	119 15.9	47 6.3	17 2.3	747 100
地域③	182 29.9	96 15.8	88 14.4	67 11.0	97 15.9	64 10.5	15 2.5	609 100
地域④	118 35.4	64 19.2	62 18.6	36 10.8	47 14.1	33 9.9	7 2.1	367 100
計	677 32.1	359 17.0	313 14.9	229 10.9	313 14.9	174 8.3	42 2.0	2107 100

表13 日・祝日の保育サービスの地域別の利用希望の要件(年齢別地域別)

n=2107 [人数/ %]

年齢構成	地域区分	日祭日 が仕事	親が 病気	病児・ 病後児	冠婚 葬祭	急用・ 外出	PTA 行事	その他	計
0～2歳	地域①	30 33.3	17 18.9	8 8.9	12 13.3	14 15.6	7 7.8	2 2.2	90 100
	地域②	69 30.8	42 18.8	22 9.8	34 15.2	39 17.4	16 7.1	2 0.9	224 100
	地域③	71 30.0	39 16.5	32 13.5	26 11.0	41 17.3	24 10.1	4 1.7	237 100
	地域④	53 34.6	20 13.1	25 16.3	17 11.1	23 15.0	13 8.5	2 1.3	153 100
	計	223 31.7	118 16.8	87 12.4	89 12.6	117 16.6	60 8.5	10 1.4	704 100
3～6歳	地域①	41 32.5	20 15.9	17 13.5	20 15.9	15 11.9	12 9.5	1 0.8	126 100
	地域②	63 35.4	30 16.9	24 13.5	20 11.2	29 16.3	8 4.5	4 2.2	178 100
	地域③	54 29.5	34 18.6	22 12.0	23 12.6	27 14.8	21 11.5	2 1.1	183 100
	地域④	49 32.7	31 20.7	25 16.7	11 7.3	17 11.3	13 8.7	4 2.7	150 100
	計	207 32.5	115 18.1	88 13.8	74 11.6	88 13.8	54 8.5	11 1.7	637 100
学童	地域①	57 33.9	31 18.5	31 18.5	17 10.1	21 12.5	11 6.5	0 0	168 100
	地域②	117 33.9	59 17.1	61 17.7	23 6.7	51 14.8	23 6.7	11 3.2	345 100
	地域③	57 30.2	23 12.2	34 18.0	18 9.5	29 15.3	19 10.1	9 4.8	189 100
	地域④	16 25.0	13 20.3	12 18.8	8 12.5	7 10.9	7 10.9	1 1.6	64 100
	計	247 32.2	126 16.4	138 18.0	66 8.6	108 14.1	60 7.8	21 2.7	766 100

表15 日・祝日の保育サービスの地域別の利用希望内容 (年齢別地域別)

n=1913 [人数/％]

年齢構成	地域区分	保育所	放課後児童クラブ	ファミリー・サポート・センター	家政婦	ベビーシッター	その他	計
0~2歳	地域①	37 88.1		3 7.1	0 0	1 2.4	1 2.4	42 100
	地域②	78 70.3		18 16.2	2 1.8	12 10.8	1 0.9	111 100
	地域③	91 77.8		15 12.8	2 1.7	7 6.0	2 1.7	117 100
	地域④	51 81.0		8 12.7	0 0	2 3.2	2 3.2	63 100
	計	257 77.2		44 13.2	4 1.2	22 6.6	6 1.8	333 100
3~6歳	地域①	33 61.1		11 20.4	2 3.7	4 7.4	4 7.4	54 100
	地域②	67 82.7		9 11.1	0 0	3 3.7	2 2.5	81 100
	地域③	67 74.4		17 18.9	3 3.3	3 3.3	0 0	90 100
	地域④	34 66.7		9 17.6	2 3.9	5 9.8	1 2.0	51 100
	計	201 72.8		46 16.7	7 2.5	15 5.4	7 2.5	276 100
学童	地域①		62 63.9	17 17.5	6 6.2	9 9.3	3 3.1	97 100
	地域②		144 67.9	41 19.3	8 3.8	10 4.7	9 4.2	212 100
	地域③		77 68.8	25 22.3	2 1.8	2 1.8	6 5.4	112 100
	地域④		23 63.9	7 19.4	2 5.6	3 8.3	1 2.8	36 100
	計		306 67.0	90 19.7	18 3.9	24 5.3	19 4.2	457 100

表16 日・祝日の保育サービスの地域別の利用希望内容 (地域別)

n=1913 [人数/％]

地域区分	保育所 n=609	放課後児童クラブ n=457	ファミリー・サポート・センター	家政婦	ベビーシッター	その他	計
地域①	70 72.9	62 63.9	31 16.1	8 4.1	14 7.3	8 4.1	193 100
地域②	145 75.5	144 67.9	67 16.8	10 2.5	25 6.2	12 3.0	404 100
地域③	158 76.3	77 68.6	57 17.9	7 2.2	12 3.8	8 2.5	319 100
地域④	85 74.6	23 63.9	24 16.0	4 2.7	10 6.7	4 2.7	150 100
計	458 66.3	306 67.0	180 16.9	29 2.7	61 5.7	32 3.0	1066 100

保育所：0~2歳と3~6歳のみ 母集団を全体から限定した n=609 (回答した人数)
 放課後児童クラブ：学童のみ 母集団を全体から学童のみとした n=457 (表15と同)

後児童クラブ306名(67.0%)を希望していた(表15)。ここでは、サービスを希望した人であり、全体数が異なっている。また、複数回答である。

地域別(表16)では、地域③は保育所(76.3%)、放課後児童クラブ(66.8%)ともに希望が高く、地域①はいずれも希望が低かった(保育所72.9%、放課後児童クラブ63.9%)。いずれも有意差はなかった。

5. 保育施設等に関する希望(自由記載)

自由記載からみた保育施設等に関する希望を分類してみると、「預かりの期間」「預かりの時間」「物的・人的環境の整備」「利用内容」「制度・政策」「利用料金」「病児保育などの医療施設」の7項目と「その他」1項目の8項目に分類できた(表17)。

①預かり期間について

「預かりの期間について」は、「土日祝の開放」、「土

表 17 保育施設等に関する希望について

n=373 件数=447

年齢構成	地域区分 (人数)	預かりの 期間	預かりの 時間	物的・人的 な環境整備	利用内容	制度・政策	利用料金	病児保育等 の医療施設	その他 (満足含)	計 [件数・%]
0～2歳 n=101	地域① (13)	1	0	5	7	0	1	0	2	16 100
	地域② (39)	5	2	16	11	6	6	0	1	47 100
	地域③ (29)	5	1	14	9	3	1	2	2	37 100
	地域④ (20)	3	2	9	4	1	0	0	2	21 100
	計	14 11.6	5 4.1	44 36.4	31 25.6	10 8.3	10 8.3	2 1.7	7 5.8	121 100
3～6歳 n=65	地域① (10)	2	4	4	1	0	0	2	0	13 100
	地域② (26)	4	0	8	3	2	2	3	5	27 100
	地域③ (13)	0	1	7	4	0	1	1	1	15 100
	地域④ (16)	5	0	4	3	2	0	1	3	18 100
	計	11 15.1	5 6.8	23 31.5	11 15.1	4 5.5	3 4.1	7 9.6	9 12.3	73 100
学童 n=207	地域① (35)	16	4	6	9	5	1	3	0	44 100
	地域② (107)	35	15	20	24	5	10	10	4	123 10
	地域③ (45)	16	5	18	11	5	3	1	0	59 100
	地域④ (20)	11	2	3	5	3	3	0	0	27 100
	計	78 30.8	26 10.3	47 18.6	49 19.4	18 7.1	17 6.7	14 5.5	4 1.6	253 100
総件計	103 23.0	36 8.10	114 25.5	91 20.4	32 7.2	28 6.3	23 5.1	20 4.5	447 100	

日以外の開放」,「預かり期間の延長」「病気の時の対応」の4項目となった。特に学童期の保護者から多く、その内容は、現状の小学3年生までの放課後児童クラブ等を6年生までに期間延長を切に希望しており、次に長期休暇中のクラブ希望、緊急時(学級閉鎖や感染症対策など)の預かりに困っており、その対応を希望していた。

土曜日、日曜日、祭日の開放はどの年代の保護者も希望が多かった。

「0歳から2歳児の子どもを持つ保護者」

日曜日、祝日も安心して預けられる施設をもっと増やしてほしい。田舎は都会に比べて育児支援が少ない。田舎でも核家族は多いし、同居でも自営業のため頼めないこともあり、働く母親の負担は大きい。土・日・祝が休めないで、安心して預けられる環境を希望。通常で土曜日も保育してほしい。インフルエンザで保育所が休園になるのは困る。保育所以外の託児所がないし、学童も小学三年までの利用と、少子化や田舎のせい、夜間・24時間保育、病児保育、職場内の保育所など全然ない。仕事をする上で範囲が狭まる。長期休み(春休み・夏休み・冬休み)の給食なし

の自由保育は困る。インフルエンザなどでお休みするときに預かってほしい。

「3歳から6歳児の子どもを持つ保護者」

日・祝の利用ができるとありがたい。日・祝も仕事をしたいてほしい。土曜日の保育時間は午前のため、途中迎えに行かなければならなくて困っている。常勤は休日にも働かなければならず、預かれる保育園に限られていて遠いところやいつも違うところへ預けなければならず、保育料も高く安心できる場所がほしい。土曜日の12時までは11時までに仕事を終わらなければいけないため、勤め先にそのようなシフトはない。土曜日の一泊保育を希望。土曜日も一日みてほしい。幼稚園の夏休みをなくし、幼児センターにしてほしい。土曜日にも仕事があるため、土曜日は一日保育をしてほしい。

「学童期の子どもを持つ保護者」

学級閉鎖、警報等急な学校のお休みの際に預かってくれる施設がほしい。急に仕事は休めないでインフルエンザなどの非常時の対応。小学6年生まで預かってくれる放課後児童保育がほしい。高学年もみてもらえる施設がほしい。夏休みなどは昼食をみんなで食べ

て勉強できる環境が必要。高学年でも長期休暇中も預かってほしい。小学6年生まで子どもの居場所を作ってほしい。小学4年生まではなんとかみてほしい。4年生を一人でいさせるのは不安。4年生以降の利用が課題。夏休み期間をどうするかが課題。高学年も低学年と同じ放課後クラブができると安心。長期の夏休みは、小学4年では(留守番は)心配。高学年の対象の児童クラブを作ってほしい。学童保育を小学6年まで預かってほしい。土・日も仕事があるため、土・日もほしい。日・祝もあれば仕事がしやすくてありがたい。学級閉鎖、警報等急なお迎えは無理なのでもう少しみていただきたい。学童は時間を合わさないといけないので、保育園より不便。

②預かりの時間について

「預かりの時間について」は、「預かり時間の延長」で、乳幼児期の子どもの保護者は「現行よりの時間延長」「延長時間の延長」「24時間保育」を希望するが最も多かった。学童期の子どもを持つ保護者は「現行よりの時間延長」希望がほとんどであった。

「0歳から2歳児の子どもを持つ保護者」

土曜日は17時までで困る。シフト制の仕事のため土・日は関係ないため日曜日でも保育があれば最高。せめて20時まで延長保育してほしい。定時退社は難しく頼りになるのは保育園だけ。夜も仕事をしているため、夜保育もしてほしい。延長保育時間を伸ばしてほしい。保育時間を少し朝早くしてほしい。たとえば、7時から。延長ではなく、通常時間を伸ばしてほしい。たとえば、18時の現行を18時半まで。

「3歳から6歳児の子どもを持つ保護者」

女性の職場には夜勤もあるのに昼間しか預けることができないところが多い。24時間預かってもらえるところが増えるといい。時間をもう少し伸ばしてもらえると残業ができる。たとえば、20時まで。夜勤対応をしてほしい。20時半までみてほしい。

「学童期の子どもを持つ保護者」

17時までは時間帯が短い。17時までに仕事は終わらないので困る。18時半くらいまでにしてほしい。保育所から学童になると急に保育時間が短くなり困る。学童保育時間が短いので転職するしかなく困った。仕事が続けられるよう時間は保育所と同じにしてほしい。早朝預かり。夜勤対応。事前に申しでると、早朝・延長保育ができるようにしてほしい。体調不良によりお迎えに行くことが直ぐにできないのでその対応をしてほしい。24時間学童保育。

③物的・人的環境の整備について

「物的・人的環境の整備について」は、物的環境と人的環境に分けることができた。

物的環境では、「広い施設希望」、「雨の日の施設の整備」、「設備の充実(特にクーラー)」、「駐車上の整備」、「保健室の整備」、「育児環境の整備」、「遊具の充実」、「温水シャワー」であった。学童の子どもを持つ保護者からは、クーラーの設置と部屋の狭さ改善についてたくさんの要望があった。

人的環境では、「保育士の確保・増員」、「指導員の増員」、「急病時の医療者」、「急病時の送迎」であった。学童の子どもを持つ保護者からは、指導員の少なさとそのための人員確保についてたくさんの要望があった。

「0歳から2歳児の子どもを持つ保護者」

現在預けている保育所は狭い。広い庭園希望。身近な公園と、雨の日の遊べる場所。外でははいはいができるような場所。駐車場完備。新しいものを取り入れる。全室の冷房。バリアフリー。遊具の充実。自然のものを取り入れた遊具。お迎えの車の駐車スペースをもっと多くほしい。保育士の確保。病気の子どものみてもらえる場所。保健室などの確保。保育士の数を増やしてほしい。保育所の庭を広くしてほしい。広い庭。トイレの充実。安全面を考慮した建物管理。安全の徹底と整備。残業で遅くなる時の夜食を作って食べさせてほしい。子どもの数に対して保育士を増やしてほしい。部屋の温度管理をしてほしい。たとえば、エアコンの設置。

「3歳から6歳児の子どもを持つ保護者」

広い庭園。ロッカーなどの設備の充実。トイレの設備。病児保育の施設がほしい。突然の発熱などによる対応設備。

「学童期の子どもを持つ保護者」

気分不良時の休息スペース。人数に見合った部屋の広さ。建物の老朽化の改善。小学校の放課後開放による学童クラブ。スタッフ増員。教員免許を持ったスタッフ確保。設備面積の基準が狭いため、改善してほしい。部屋が狭くて事故が起こりそうである。プレハブではなくしっかりとした建物が必要。勉強部屋の確保。もっと部屋は広くしてほしい。冷暖房の完備。網戸の整備と換気。冷房設備。冷蔵庫やレンジの設備。夏はつらそうであせもが多く、窓を開けると蚊に刺されるため網戸とクーラーの設置を希望。

④利用内容について

「利用内容」については、「規程の見直し(設備・利

用内容の見直し、利用システム、利用時間帯の見直し、子どもが病気の時・緊急時の預かり、利用者の見直しなど)、「給食やおやつを出してほしい」、「習い事・学習をしてほしい」、「急病の時に送迎をしてほしい」、「急病の時に見てほしい」、「子どもの様子をITで見ることができるとよい」、「育児教室」、「交流がしたい」、「親のカウンセリングがあるとよい」などであった。学童の子どもを持つ保護者からは、長期休暇のときの給食ついて弁当ではなく検討してほしいといった内容にたくさんの要望があった。

「0歳から2歳児の子どもを持つ保護者」

カウンセリング等があるといい。面談をしてほしい。親と子どもが気軽に集まれる場所がほしい。食事内容が気になる。味付けや食材など。習い事が保育所があれば嬉しい。病気の時に病院に連れて行ってもらえると嬉しい。一時預かりをしてほしい。育児教室。バス通園ができるといい。送迎バス。病気の時に見てほしい。インターネットで子どもの様子を見ることができるようしてほしい。外国人による英語教室。親子でできる教室の充実。

「3歳から6歳児の子どもを持つ保護者」

親子教室。保育所の行事が少ない。習い事ができる設備を希望する。給食内容の充実。看護師を置いてほしい。病院との併設や、急病の時の病院への送迎。送迎バス。インターネットなどでカメラの映像で子どもの様子を見ることができる。

「学童期の子どもを持つ保護者」

長期休みの給食。弁当持参は中毒などがこわいので配送弁当などを利用してほしい。昼食やおやつの業者委託希望。長期休暇中の給食。学校との連携。学校設備の使用や活用。おやつの配給。給食サービス。時間延長とそのときの場所確保。自宅へ子どもを送ってくるサービス。送迎バス。習い事ができる環境整備。病気の時にきょうだいを見てほしい。様々な子どもがいて、ここでは手に負えないような子どもの退所勧告ができないのか。指導員の質を改善してほしい。指導員の指導。障害がある場合の制限や人数制限があり、この改善をしてほしい。手作りのおやつを与えてほしい。習い事の時間などがあるため、その時間に間に合うように送迎してほしい。習い事(ピアノ、そろばん、習字)の指導をしてほしい。

⑤制度・政策について

「制度・政策」については、「現状を把握してほしい」、「保育所の場所を適切な位置に」、「保育所を増やしてほしい」、「子育て支援の充実」、「預け先がな

い」、「学童保育の充実」、「学童保育を学校に併設してほしい」、「待遇改善(保育従事者、指導員)」、「放課後児童クラブがない」、「小学校の開放」、「放課後児童クラブのあり方」、「他のサービスを知らないなどであった。内容は多岐にわたり、子どもの年齢によって、現行の制度がどのようなものかといった地域によって、要望も希望も違いがあった。

「0歳から2歳児の子どもを持つ保護者」

職探しの人のためでも保育をしてほしい。一時保育。勤務先に保育所があること。保育所を増やしたり、認定こども園を増やしてほしい。保育所が遠く、適切な場所に設置してほしい。待機児童をなくしてほしい。保育所の民営化は反対で、保育所をもっと増やしてほしい。幼保一元化を進めてほしい。認定こども園を増やしてほしい。

「3歳から6歳児の子どもを持つ保護者」

保育従事者の待遇改善。保育の選択肢が増えるといい。子育てを理解してくれる社会のありかた。

「学童期の子どもを持つ保護者」

小学校の放課後開放。保育所数の増加。待機児童の減少。保育所の増加と保育料を下げる。放課後クラブのあり方。少子化問題への対応。高額な保育料の見直し。利便性のある保育所設置。学校の敷地の利用。児童館の運営の検討。職場を休める権利。

⑥利用料金について

「利用料金」については、「料金が低い(高いのであまり利用したくない)」、「補助がほしい」、「料金の内訳を知りたい」、「延長料金なしで見てほしい」などであった。利用内容の要望はつきないが、同時に料金の定額化を希望する声も多く、保育施設の充実、人員の増加、サービスの充実を要望することにより予算化するべき内容も、この「高い」という要望と反比例せざるを得ない状況であった。

「0歳から2歳児の子どもを持つ保護者」

もう少し安くなれば利用しやすい。補助がほしい。控除してもらいたい。保育料で支払っているのに、病児保育は無料にしてほしい。土曜日利用しないかわりに保育料を安くしてほしい。ファミリー・サポートなどの利用料を低料金にしてほしい。保育料が高い。なんのために働いているのか。ファミリー・サポートもカンガルーネットも高額である。公的な補助を出して安くしてほしい。

「3歳から6歳児の子どもを持つ保護者」

ファミリー・サポートをもっと安く。保育料が何に使われているのか、明細にわかるようにしてほしい。

通わない月もあり、日割り保育にしてほしい。

「学童期の子どもを持つ保護者」

他にかかるので、安くしてほしい。利用の補助をもっとしてほしい。学童について、利用は月に1000～2000円にしてほしい。利用しなくても支払う保育料やおやつ代を日割りにしてほしい。母子家庭には負担である。

⑦病児保育等の医療施設について

「病児保育等の医療施設」については、「病児・病後児保育が近くにあるとよい」、「駅前で作ってくると利用しやすい」、「病児保育の定員の見直し」、「病院併設施設の充実」などであった。地域によって、病児・病後児保育がないところも多く、まずはその設置を希望するものが多かった。

「0歳から2歳児の子どもを持つ保護者」

病気の子どもをみてくれる保育所。病児保育者が近くにほしい。

「3歳から6歳児の子どもを持つ保護者」

病気の時に受診してくれるサービスがほしい。病気の子どもを預かってくれるより、休みが取れる職場がほしい。病後保育の充実。子どもが病気の時に見てほしい。保育所に保健室を設置してほしい。ベビーシッターもカンガルーネットもない地域です。そのような施設が助かる。

「学童期の子どもを持つ保護者」

病児保育室。病児保育は駅前に作ってほしい。病児保育がない地域の設置。医療施設の設備。病児保育がないので設立してほしい。病児の預かりの充実。

⑧その他

「その他」では、「現状に感謝」という意見が多く、同時に保育所への希望よりも「職場の理解」、「家庭でサポートを受けているが将来的に不安」などがあり個別的な要望となっていた。

「0歳から2歳児の子どもを持つ保護者」

職場の理解がほしい。保育園の役員をつくらず、指定の制服やかばんも作らないでほしい。育児困難。仕事を探すとき、保育園に通う条件で仕事を探すとなかなかみつからず、困った。現状で満足している。このようなものだと思う。

「3歳から6歳児の子どもを持つ保護者」

子どもが楽しそうに満足している。満足。保育園で十分にさせていただいている。感謝している。親同士の支え合うような関係がほしい。保育が行き届いて満足している。

「学童期の子どもを持つ保護者」

自主運営時代からの大変さからは感謝していますが、クラブを充実させていきたい。保護者会が負担であり、なくしてほしい。望んでも仕方がない。今のままで十分である。

V. 考 察

1. 年齢別ニーズ

通常保育サービスでは利用できる条件に対して、年齢ごとに通常利用する施設の利用度は高く、十分に活用がされていることがわかった。さらに加えると十二分な活用といえる。つまり、施設利用の飽和状態と考えることもできる。また、通常利用する施設以外での支援になると、その内容は変化していた。子育て支援は、学童期までの子どもについてみると延長・休日・一時保育などの利用は20%前後で利用が可能であるが、学童の子どもをみると延長・休日・一時保育のような子育て支援が備わっていないため、ファミリーサポートセンターの利用が多くなっていた。

保育サービスの利用時間は勤務時間と一致しているのがいずれの年齢も7割以上であるが、母親の勤務状況が施設利用状況を考慮した勤務をしている可能性も考えられる。それは、自由記述になると学童期の子どもを持つ親からの要望は膨大な量と内容になっており、その内容は時間外、休日、延長の預かりといった「預かりの期間」「預かりの時間」を希望する内容であった。また、ファミリーサポートセンターの保育料が高いという「利用料金」に対する自由記述が目立ち、利用する限界もあるように伺えた。保育サービスの利用時間が親の勤務時間と一致しない理由には、学童期の子ども以外では交代勤務、夜勤、通勤時間がかかるが多かったが、学童期の子どもは勤務時間よりも施設の開放閉鎖時間が早い遅いが最も多かったことから、施設についての改善してほしいニーズは高いことがわかった。

保育サービスの利用時間のニーズをみると、利用開始時間を学童期では8時が最も多かったが、学童期以外子どものニーズは7時が最も多く、終了時間も学童期では19時だったのに比べ20時と、朝早くから夜遅くまでの利用時間を希望していることがわかった。

さらに、休日の保育サービスのニーズはいずれも高かった。利用する理由に、「日・祝日が仕事」最も多く、休日の保育サービスが緊急の課題といえる。サービスの内容は、学童期は放課後児童クラブ、学童期の

子ども以外では保育所が最も多く、通常にも利用している施設を通常以外にも利用することを希望していることが明らかになった。

以上から、年齢別の子どものニーズは特に学童期の子どもを持つ親の要望が多く、「小学6年生までの放課後児童クラブの期間延長」、「長期休暇中の緊急児の預かり対応」に対して検討する必要がある。

2. 地域別ニーズ

地域別ニーズについては年齢についても加え、表18にまとめたような年齢構成に基づいてニーズを明らかにしていく。

通常の保育サービスを利用している割合は、地域①が最も高く保育所・認定こども園をあわせて約95%、他の地域は90%前後であった。厚労省の調査³⁾では、平成21年10月現在で3歳未満の待機児童は84.9%、3歳以上では15.1%ということだが、今回の調査では保育所等の施設を利用している対象であるそのきょうだいの処遇に苦慮していることが伺える。通常の保育施設以外での育児支援制度では、特に0~2歳の地域③④でまちの子育てひろばや保育所園庭開放の利用が多かった。地域③④は、通常の保育サービスが充実していないため、それに比例して育児支援の利用が他の地域と比較して高くなっているといえる。

次に、日・祝日の保育サービスの利用について希望すると答えた割合は、地域④では他と比して低く、年齢別の利用希望は他の地域と異なった傾向を示していた。また、日・祝日の保育サービスの利用要件につい

ても、地域④は「病児・病後児のとき」「親が病気のとき」の割合が高かった。これらは、地域④は3~6歳と0~2歳の保育サービスを必要とする年齢の割合が高いこと、さらに通常の保育サービスが整っていない地域であることが理由と考えられる。兵庫県内の病児保育施設は13あり⁴⁾、そのうち地域①は3か所、地域②は2か所、地域③④には病児保育施設は存在しないことから、「病児・病後児施設」の利用希望が高かったことが予測される。

親の勤務時間と施設の利用時間の一致度については、地域①が一致していないと答えた割合が高く、地域③④と有意差があった。また保育サービスの希望では地域①は「休日勤務」と「施設の開閉時間の早遅」の割合が高かった。地域①は親の職業が会社員・公務員の割合が多く、常勤であること、子どもが学童の割合が高いことが理由のひとつと考えられる。また、保育施設等に関する希望（自由記述）では、地域②の希望の割合が特に学童期で高かった。地域②は保育サービスの利用時間と勤務時間の一致度は約75%で、地域①の次に一致していないと答えていた。親の職業は0~2歳で自営業が多く、子どもが学童期の割合が高く、希望内容は「預かり期間、預かりの時間」「物的・人的な環境整備」「利用内容」など、施設改善について全般にわたって回答していた。

以上から、保育サービスの整備が不十分な地域④、地域③は他の地域と比較して育児支援を利用していたが、保育サービスの希望はそれを補完する内容だけでなく、日・祝日の利用についてその地域の子どもの年齢構成も加味した保育サービスを検討する必要があることがわかった。また、地域①と地域②では、保育サービスはおおむね充実しているが、親の職業や交通の利便性、地域の実情に応じたサービスなど、ニーズにあったものが提供できる方策が望まれる。

文 献

- 1) 総務省：労働力調査，平成21年度
- 2) 厚生労働省：21世紀出生児横断調査，平成21年
- 3) 厚生労働省：保育所入所待機児童数について（平成21年10月）<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000000584s-img/2r9852000000588y.pdf>
- 4) 全国病児保育協議会加盟施設一覧表（平成22年6月1日）<http://www.byoujihoiku.ne.jp/shisetsu/ichiran04.html>

表18 地域別年齢構成

地域区分	年齢構成	人数 (%)
地域①	0~2歳	71 (19.8)
	3~6歳	128 (35.6)
	学童	160 (44.6)
	合計	359 (100)
地域②	0~2歳	166 (23.6)
	3~6歳	165 (23.4)
	学童	373 (53.0)
	合計	704 (100)
地域③	0~2歳	166 (32.1)
	3~6歳	157 (30.4)
	学童	194 (37.5)
	合計	517 (100)
地域④	0~2歳	115 (34.5)
	3~6歳	139 (41.8)
	学童	79 (23.7)
	合計	333 (100)